

「私の街から戦争がみえた」

…登戸研究所に勤務した少女との出会い…

明治大学平和教育登戸研究所資料館展示専門委員 渡辺 賢二

1. 川崎中原平和教育学級のはじまり

- (1) 1985年から川崎市では「平和教育学級」が開始された。
- (2) これは川崎市教育委員会が主催したもの。
- (3) 市民が企画委員になり、内容を具体化した。
- (4) 1986年から中原平和教育学級がはじまった。

2. 登戸研究所が一つのテーマに選ばれた

- (1) 1987年は「川崎と戦争」をテーマにした。
- (2) ある新聞記者から川崎北部で「稲が実らなかった」の情報。
- (3) 明治大学生田キャンパスの調査へ。
- (4) 市民や高校生・教師などがフルドワーク開始。

3. 現地調査の開始

- (1) はじめた当時は、明治大学農学部は古い建物を使用。
- (2) そこには巨大な動物慰霊碑が遺っていた。
- (3) どんな動物を実験したのか？
- (4) 当時の防衛庁戦史資料室などを調査…なにもわからず。

4. 井上さんとの出会い

- (1) 数多くの建物が多くの人が勤めていたことを示す。
- (2) しかし、誰もここに勤めていたことを明かす人はいなかった。
- (3) 高校生は何回か見学会をやると勤めていた人が現れるかもという。
- (4) 新聞に掲載してもらい5回目ぐらいの見学会に
…後ろからついてくる方いた。…井上さんだった。

5. 井上さんが語ったこと

- (1) 「動物慰霊碑」は初めて見たという。なぜか？
・別の科には近寄れなかったから。

- (2) 「秘密を墓場まで持って行こう」と言って解散した。
- (3) 戦後 40 年過ぎた頃からお互いに挨拶するようになった。
- (4) 登研会をつくろうと名簿を作成中。

6. アンケートをとる

- (1) 勤務した方からアンケートをとったら…
・ 高校生のアイデア。
- (2) 川崎市教育委員会名で 99 名にアンケートを発送。
- (3) 27 名の方から返事をいただいた。
- (4) その中に和田さんなど数名から話を聞くことが出来た。

7. 登戸研究所に入所した若者たち

- (1) 近くの高等小学校出身の 15 歳前後の少年・少女が入所。
 - (2) どこに行っているのか、何をしているのか話さなかった。
 - (3) 自分の部署以外は移動もしなかった。
 - (4) しかし、自分が行っていた場所は詳細に知っていた。
- …こうした聞き取りが「点」が「面」になり、「立体」となった。

8. ある少女との出会い

- (1) アンケートに「資料をもっている」という人がいた。
- (2) 15 歳で入所した少女がもっているものだからと軽視した。
- (3) ところが行ってみて驚いた。
- (4) 900 点を超す和文タイプの記録集だった。
- (5) 「雑書綴」という文書の綴りだった。

9. ある少女の仕事は？

- (1) 最初は第二科の雇員として入所。
- (2) タイピストになることとなった。
- (3) 勤務が終わると渋谷のタイピストの学校に通った。
- (4) 毎日一枚は上達ぶりを確認するため閉じることを許可された。
- (5) 極秘のものは閉じることが許されなかった。

10. 敗戦時にどうして持ち去ることが出来たか

- (1) 証拠隠滅命令が下された。
- (2) でもこの「雑書綴」は「自分の宝物」だった。
- (3) だから公表するつもりはなかったので持ち帰った。
- (4) 戦後 40 年間、誰にも見せずに保管してきた。

11. 登研会が出来る動きの中で

- (1) 「青春を取り戻す」動き。
- (2) 明治大学構内の神社敷地に「登戸研究所跡碑」を建立。
- (3) 昭和が終わる 1988（昭和 63）年 10 月に設置。
- (4) 実際に設置したのは、天皇が死去したので 1989 年。

12. 碑に読まれた内容を読み解く

- (1) 「すぎし日は この丘に立ち めぐり逢う」の歌碑。
- (2) 40 年間沈黙していた。それは青春を失うことだった。
- (3) やっと話してもいい時となった。
- (4) これが登戸研究所について語りはじめる最初であった。

13. 登研会と少女の遺した「綴」の価値

- (1) 登戸研究所は秘匿されていた。
- (2) したがって勤務した人は年金の対象にならなかった。
- (3) しかし、この第二科の綴に名前があれば証明された。
- (4) 登研会が出来ると所員が認めると雇員・工員も勤務者と認定。
- (5) こうして登研会に入った人たちが少しずつ話してくれた。
- (6) 小さい資料も積み重なると大きくなる。

14. 登戸研究所第二科とは？

- (1) 雑書綴りは登戸研究所第二科のタイピストが遺したもの。
- (2) 登戸研究所第二科の内容
 - ・ 1937 年 12 月に陸軍科学研究所の実験場としてはじまった。
 - ・ 1939 年、陸軍科学研究所登戸出張所となり、拡大。
 - ・ 1941 年には第一科（物理）、第二科（生物化学）、第三科（印刷）。
 - ・ 1942 年には第四科（兵器製造）が設立。第九陸軍技術研究所となる。
 - ・ この中の第二科の内容がわかるもの。

15. 『雑書綴』に書かれていた内容

- (1) 書かれた時期
 - ・ 1941（昭和 16）年～1944（昭和 19）年まで。
- (2) 極秘の判が押されているものは皆無。
 - ・ 極秘のものは所員がそばにいて失敗したものも回収。
- (3) 雑書綴からわかってきたこと
 - ・ 細かな第二科の動きがわかる。

16. 雑書綴が示す登戸研究所第二科

(1) 購入伝票に見る毒物研究 (第二班)

- ・マリアナ (昭和 16 年 8 月 14 日)
- ・コロチカム ((昭和 16 年 12 月 11 日)
- ・イヌサフラン (昭和 16 年 9 月 1 日)
- ・雨傘蛇の毒 (昭和 17 年 9 月 19 日、昭和 18 年 4 月 7 日)

(2) 購入伝票に見る細菌兵器研究 (第六班)

- ・二化螟虫 (昭和 17 年)
- ・トウモロコシのフィソデルマ菌 (昭和 9 月 17 日)
- ・小麦の種子 (昭和 17 年 10 月 6 日)

(3) 購入伝票から見る不思議な購入物 (第二・第三班)

- ・氷の大量購入 (昭和 17 年 10 月 27 日、昭和 18 年 3 月 2 日) など。
- ・牛肉・豚肉など (昭和 16 年 10 月 8 日)

(4) 危険作業に従事した事実

- ・化兵手当
- ・危険作業従事現況調べ
- ・救急治療について

(5) 出張文書

- ・ホニ号関係で北海道出張 (昭和 18 年 7 月、8 月)
- ・ホホ号関係で満州出張 (昭和 18 年 8 月)
- ・ホへ号関係で静岡県出張 (昭和 18 年 4)
- ・ホロ号で千葉県出張 (昭和 18 年 3 月 12 日)

(6) 動物実験室設置

(7) 第二科の所員の出身学校

(8) 中支那防疫給水部との関わり (昭和 18 年 2 月 20 日)

(9) 研究途上の事故 (昭和 18 年 7 月)

(10) 科内巡視所見 (昭和 18 年)